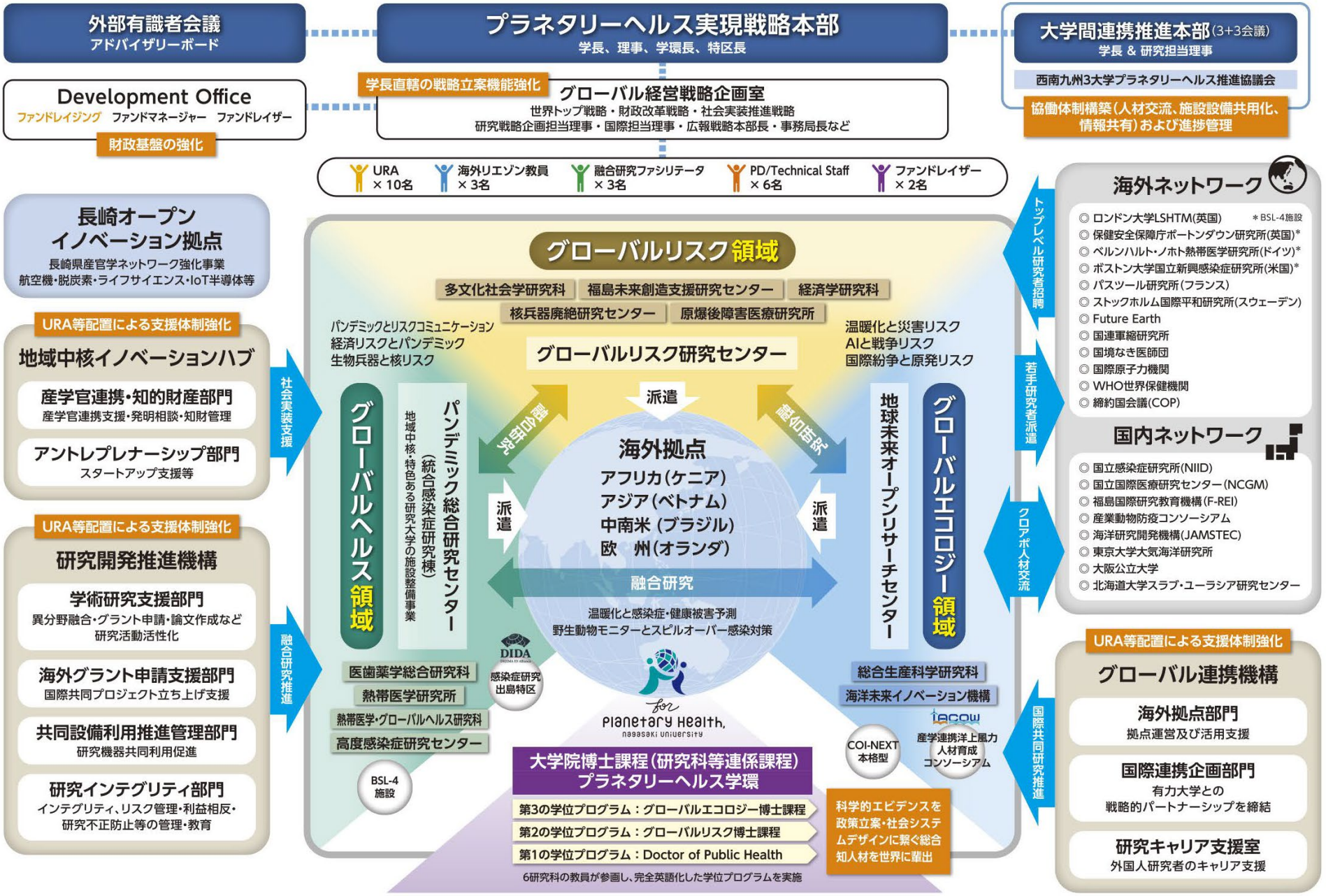
# 実施体制




地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）

# 取組内容の時系列イメージ

令和7年度 ～ 令和11年度 → 令和12年度 ～ 令和17年度

## イノベーションを生み出す大学経営改革

### 戦略的経営の推進

**プラネタリーヘルスで世界を牽引する国際研究大学へのステップアップ**

- ○ プラネタリーヘルス実現戦略本部設置
- ○ Development Officeの設置、NUGAN拡大等による資金調達の拡大
- ○ 外部有識者会議による評価とそのフィードバック
- ○ 大学運営資金獲得支援：マーケティング手法確立、広報活動強化
- ○ 西南九州3大学間連携推進本部設置による協働体制強化
- ○ グローバル経営戦略企画室設置、経営戦略策定

### 若手、外国人、留学生支援

**若手研究者や外国人研究者が活躍できる大学へ**

- ○ 博士課程学生へ経済的支援、キャリア開発支援等の拡充
- ○ 若手海外派遣事業、若手研究者へ研究費支援、若手研究者の処遇改善・研究環境整備
- ○ 外国人研究者・留学生への支援拡充
- ○ 欧州拠点設置によるグローバル研究推進体制強化

### 研究支援体制強化

**多職種の人材が協働し研究者が研究に専念できる大学へ**

- ○ 研究支援人材の大幅拡充・育成
- ○ URA職階制度の整備と実践
- ○ 共用設備拡充と技術職員育成
- ○ 事務組織の国際化
- ○ 融合研究ファシリテータ雇用・研究交流の場の設定・融合研究PJ化支援
- ○ 東京オフィス拡充による共同研究推進・スタートアップ支援

## 超領域型研究の取組み

for Planetary Health, nagasaki university

**感染症分野で世界トップクラスの研究大学へ**

- ○ 設置：パンデミック総合研究センター、国際感染症情報データ部門、感染症リテラシー部門
- ○ 宮崎大学・鹿児島大学とのスピルオーバー感染症協働プロジェクトチーム形成
- ○ 海外拠点を利用した野生動物モニタリング開始
- ○ 気候変動と感染症予測・健康影響調査
- ○ 気候変動と野生動物行動変化・媒介昆虫生態変化

**総合知人材育成・政策実現能力のある博士人材の育成で世界を牽引する**

- ○ グローバルリスク研究センター本格稼働、複合化リスク研究開始
- ○ 温暖化と災害リスクの研究、国際紛争と原発リスクの研究などを推進、政策提言
- ○ 国連・海外研究期間等との国際的ネットワーク構築、国際会議開催
- ○ グローバルリスク学位プログラム設置

**地球環境問題の画期的解決法のイノベーション創出と研究成果の社会実装**

- ○ 地球未来オープンリサーチセンター設置
- ○ グローバルエコロジー学位プログラム設置
- ○ 宮崎大学GX研究センターや鹿児島大学地域防災教育研究センター等との連携研究開始
- ○ 水資源循環チームと森林緑地環境チームの融合研究、洋上風力/潮流/地熱/太陽光発電の連結統合研究、蓄電デバイス開発
- ○ 里海カーボンニュートラルモデル実証と社会実装

## 令和12年度 ～ 令和17年度

- 自立的な大学経営の実現
- 国際的に活躍できる多様な人材を育成・輩出する頭脳循環拠点
- 世界トップレベル研究を支える研究環境と高度な支援体制の実現
- スピルオーバー感染モニターの世界的なシステムの確立。感染症分野での世界トップ50ランクイン大学へと邁進
- 複合化するグローバルリスクへの処方箋を世界に発信するシンクタンクとして地位を確立
- 環境共生社会の実現に向けた脱炭素社会研究拠点へ

## アウトプットアウトカム

**外部資金（受託・共同・寄附金）獲得額**
申請時72億円
R17年度103億円

**プラネタリーヘルスの実現に資する国際大学院プログラムの新設**
R8年度グローバルリスク博士課程プログラム
R11年度グローバルエコロジー博士課程プログラム

**国際共著論文のTop10%論文率**
申請時12.9%
R17年度18.0%

**感染症分野論文数の世界ランク**
申請時162位
R17年度50位以内

**感染症分野Top10%論文率**
申請時9.6%
R17年度15.0%

**グローバルリスク国際フォーラム開催**
R12年度開催数累積2回以上
R17年度開催数累積7回以上

**スタートアップ累積数**
申請時8件
R17年度50件